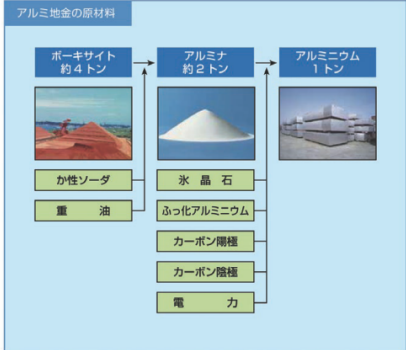
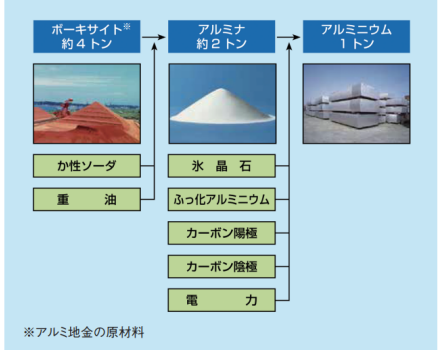
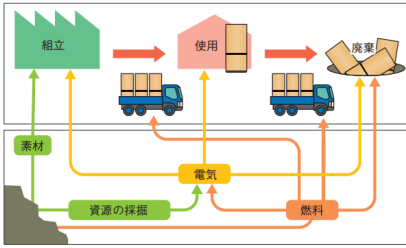
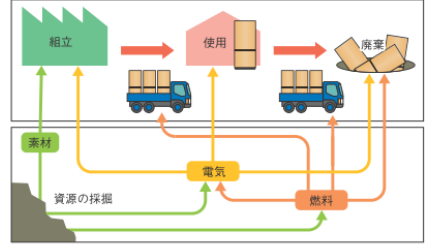
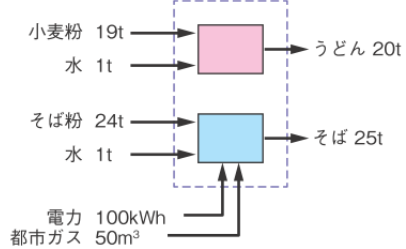
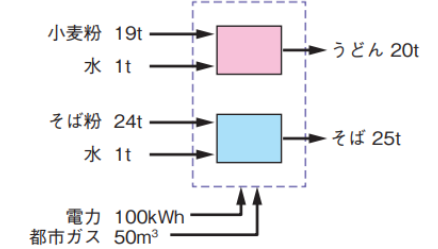


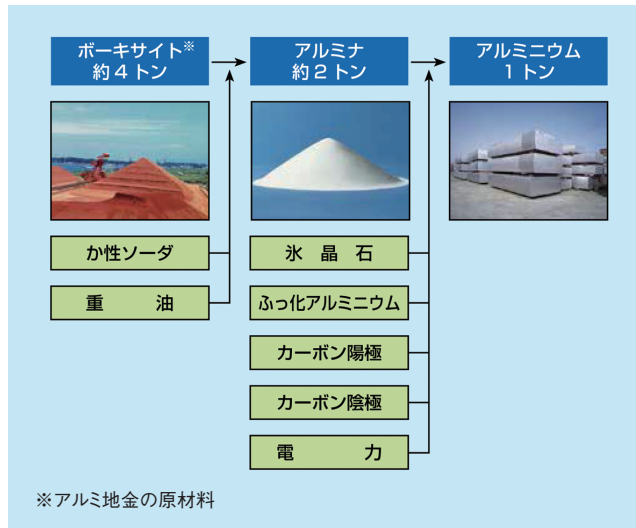
「基礎から学ぶ LCA」 正誤表(2023 年 7 月 15 日)

『基礎から学ぶ LCA』に一部誤りと記述の十分でない箇所がございました。深くお詫び申し上げますとともに、以下の通り修正させていただきます。

p.	該当箇所	誤	正
9	図 2.6	 <p>(出所：日本アルミニウム協会⁹⁾)</p>	 <p>※アルミ地金の原材料 (出所：日本アルミニウム協会⁹⁾)</p>
※ 本表の末尾に原寸図を添付			
18	図 3.2	 <p>フォアグラウンドデータ(対象製品に直接的に関係するデータ) バックグラウンドデータ(対象製品に間接的に関係するデータ)</p>	 <p>フォアグラウンドデータ(対象製品に直接的に関係するデータ) バックグラウンドデータ(対象製品に間接的に関係するデータ)</p>
※ 本表の末尾に原寸図を添付			
32	図 5.3	充分考慮して利用	十分考慮して利用
36	図 6.7		
※ 本表の末尾に原寸図を添付			
45	表 8.2 表下の注釈	出力(個体廃棄物、他)	出力(固体廃棄物、他)
47	表 8.5	(表の下に「注」を追加)	注)第 5 次報告書のメタン(100 年係数:28)は非化石由来。化石由来の 100 年係数は 30。
60	コラム1行目	「解釈」では、まず LCA「重要な--	「解釈」では、まず「重要な--

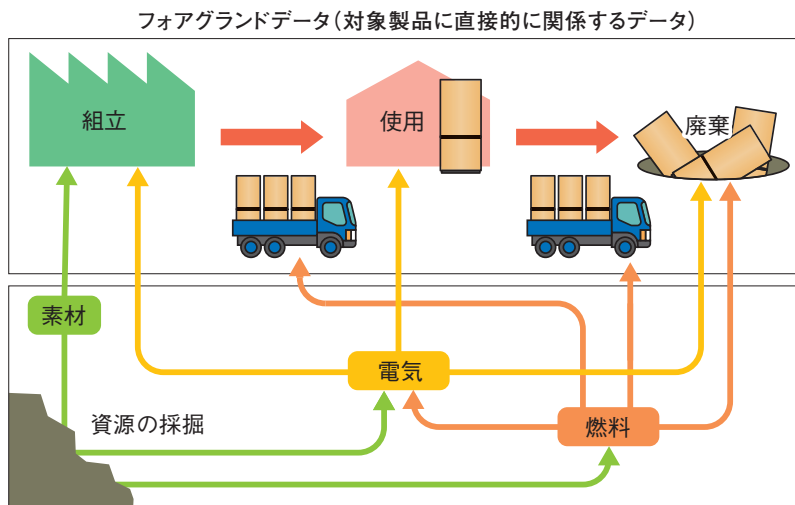
63	コラム 右3行目	示した利害関係者の委員会	示した3人以上の外部の専門家からなる委員会
63	コラム 最後の行	行われることがある。	行われることがある。また、利害関係者を含めても良いとされている。
73	図 12.14	追加	(左の図の上に) Total 16.9kg-CO ₂ (右の図の下に) Total 1,902ℓ
81	13.4 節	<p>気候変動への対策として、製品のライフサイクルでの温室効果ガス(GHG)排出量を算定することが広く行われるようになっている。消費者が製品やサービスの GHG 排出量を知り、GHG 排出量のより少ない商品を購入することが期待されている。また事業者にとっては、GHG 排出量の多い工程を把握し、効率的に GHG 排出量を削減するとともに、より GHG 排出量が少ない製品開発を促す効果がある。</p> <p>ISO 14067:2018(製品のカーボンフットプリント：CFP：Carbon footprint of products)にその計算方法が示され、企業が自社製品の CFP を客先に提示したり、環境報告書等で公表する他、算定した CFP を開示するタイプ III の環境ラベル(12.4.2 節を参照)も運用されている(詳細を 12.6 節に示した)。</p>	<p>気候変動への対策として、製品のライフサイクルでの温室効果ガス(GHG)排出量を算定することが広く行われるようになっている。ISO 14067:2018 (製品のカーボンフットプリント：CFP：Carbon footprint of products)にその計算方法が示され、企業が自社製品の CFP を客先に提示したり、環境報告書等で公表する他、算定した CFP を開示するタイプ III の環境ラベル(12.4.2 節を参照)も運用されている(詳細を 12.6 節に示した)。</p> <p>環境ラベルは消費者が製品やサービスの GHG 排出量を知り、GHG 排出量のより少ない商品を購入することが期待されている。また事業者にとっては、GHG 排出量の多い工程を把握し、効率的に GHG 排出量を削減するとともに、より GHG 排出量が少ない製品開発を促す効果がある。</p>
83	脚注 *12	第9章のコラムに示した一	第8章のコラムに示した一
88	14.2.3 節の 3行目	スリーボトムラインという。	スリー(またはトリプル)ボトムラインという。
89	右下1	45.3%	29.8%
90	左上1	27.5%	26.4%
103	右上3	<p>気候変動の影響領域では、その他の影響領域の評価方法との整合性を考慮し、LIME2 で使われている IPCC の第4次報告書(2007年)の100年係数を使用する*3。</p>	<p>ただし気候変動の影響領域は、LIME2 で使われている IPCC の第4次報告書(2007)の100年係数を使わずに、最新の第6次報告書(2021)を使う。CH₄(化石資源由来)のGWPは29.8kg-CO₂eq/kg、N₂Oは273kg-CO₂eq./kgである*3。この事例では使用しないが、CH₄(非化石資源由来)は27.0kg-CO₂eq./kgである。</p>

104	表 16.1	CH ₄ (化石資源由来)の 地球温暖化:特性化係数 2.80E+01	2.98E+01
104	表 16.1	CH ₄ (化石資源由来)の 地球温暖化:やかん 2.54E+00	2.70E+00
104	表 16.1	N ₂ Oの地球温暖化:特性化係数 2.65E+02	2.73E+02
104	表 16.1	N ₂ Oの地球温暖化:やかん 7.66E-02	7.90E-02
104	表 16.1	地球温暖化:やかんの合計 8.22E+01	8.24E+01
105	表 16.2	気候変動の特性化の結果 8.22E+01	8.24E+01
105	表 16.2	気候変動の正規化後の結果 6.27E-11	6.29E-11
106	右上 8	LIME2 を使った被害評価の結果を表16.4 に示す。重み付け結果の合計は269 円とな り、	LIME2 を使った重み付けの結果を表16.4に示 す。合計は269 円となり、
115	表 17.5	CH ₄ (化石資源由来)の地球温暖化 2.55E+00	2.71E+00
115	表 17.5	N ₂ Oの地球温暖化 7.74E-02	7.97E-02
115	表 17.5	地球温暖化の合計 8.30E+01	8.32E+01
115	表 17.6	CH ₄ (化石資源由来)の地球温暖化 2.62E+00	2.79E+00
115	表 17.6	N ₂ Oの地球温暖化 7.90E-02	8.14E-02
115	表 17.6	地球温暖化の合計 8.39E+01	8.41E+01
127	Appendix 表 2	CH ₄ (化石資源由来)の地球温暖化 2.80E+01	2.98E+01
127	Appendix 表 2	N ₂ Oの地球温暖化 2.65E+02	2.73E+02



(出所：日本アルミニウム協会⁹⁾)

図 2.6 アルミニウム一次地金の生産プロセス



バックグラウンドデータ(対象製品に間接的に関係するデータ)

図 3.2 実務としてのインベントリ分析の実施方法

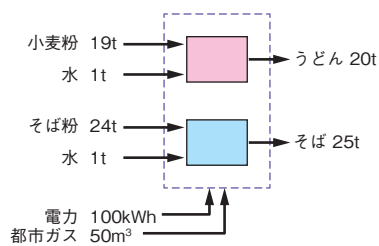


図 6.7 配分問題の例(プロセスを細分化した例)